

コワーキングスペース

ラン

トウキョウ

Run Tokyo」誕生！

2017.4.7 FRI GRAND OPEN！





新しい時代を動かす新しい
ダイアゴナル

「Diagonal」



東京・八重洲に 東京と地方を結ぶ 新拠点が誕生

ふくおかフィナンシャルグループ（以下…
FFG）は、2017年4月に設立10
周年を迎えました。その記念事業の一
環として、新しい価値を共創するオー
プンノベーション拠点「Diagonal Run
Tokyo（ダイアゴナル ラン トウキョウ、
以下…DRT）」を東京・八重洲に開設
しました。

東京にDRTを開設することで、九州
をはじめとした地域の企業・スタート
アップなどの情報収集や東京における
前線基地としての活用が可能になる
他、地域と東京の連携による新たなバ
ジネス機会の創出が期待されます。



01



02



01.会議室は打ち合わせや在京企業との商談など
にも使える 02.窓際のコワーキングスペース 03.コ
ミュニティ形成を重視したオープンなコワーキング
スペース 04.利用者のスタイルに合わせた働き方
や交流ができる 05.利用者同士が交流できるラウ
ンジには、コミュニティマネージャーが常駐 06.コワ
ーキングスペースは、様々なタイプの机を用意



03



04



06



05



07.バーカウンターがあり、イベント時にはお酒の提供も可能 08.一人用のブース(10席有) 09.九州のお酒が並ぶ 10.夜の雰囲気 11.広々としたイベントスペース 12.会議室(3室有)。静かな空間でミーティングができる

新しい価値を 共創する拠点施設

DRTのフロア面積は約270坪あり、コミュニティ形成を重視したオープンなワーキングスペース、会議室、イベントスペースなどで構成されています。

常時利用したい個人や企業については審査と入会金が必要ですが、1時間単位での利用も可能なのでフリーランスやリモートワーク可能な企業勤めの方、東京出張の多い地方企業の方にもおすすめです。

DRTは、イノベーションの共創に必要な様々な機能を併せ持つ「場」を提供することで、人と人、地方と東京をつなぎ、新しい価値創造を生み出します。

「Diagonal Run Tokyo」

拠点長 岩田 祐一郎 氏

福岡移住計画

代表 須賀 大介 氏

3人のキーパーソンに聞く！



Diagonal Run Tokyo

DRTのプロジェクトを企画・立案した
Brandマーケティング株式会社 代表取締役
役の永吉 健一氏とDRT拠点長の岩田
祐一郎氏、そしてコミュニティマネジメ
ントの側面から同スペースの運営を担当
する福岡移住計画 代表の須賀 大介氏
の3人に話を聞きました。

——このような拠点を作ろうと最初に
思いついたのは、いつ頃ですか？

永吉 昨年の10月の終わりです。今年
度がF F Gの設立10周年というタイミ
ングとも重なったため、とても短い期間
ではありましたが実現することができ
ました。この企画は、「オープンイノベ
ション」、すなわち企業の内部と外部を
有機的に結びつけて新しい価値を生み
出すためにはどうすればよいか、という
アプローチの一つとして、斬新で柔軟な
アイデアや技術を持っているベン
チャー、スタートアップ企業との新たな
接点を持ちたいという、前々からの強い
思いがきっかけでした。

銀行は、たくさん企業や個人の方と
お取引させていただいているのですが、実
はベンチャー企業との接点が少ないとい
うのが課題でした。決算書など過去のト

iBankマーケティング株式会社
代表取締役 永吉 健一 氏



ラックレコードを中心に、「財務的な視点からこの会社にお金を貸してよいかどうか」をジャッジするというのが、銀行が得意な融資の基本スタイルなのですが、ベンチャー企業はアイデアや技術が素晴らしいとしても、企業としては創業間もないことなどもあり、まだまだ赤字だったりするわけです。将来的にそのアイデアが大きなビジネスに成長するかどうか、私たち銀行員が資料だけを見てもなかなか専門的すぎて分からない（笑）。IT、テクノロジーに関する情報やその分野の方々と、どうやったら接点を持つことができるのかなと考えた時に、私たちの方から勉強して近づいていかないと、なかなか難しいなと思いました。

これまでも、さまざまな形でイベントに参加したり、ビジネスアイデアを募集したりして、一生懸命、私たちの側からも追いかけてきたのですが、世の中のスピードは予想以上に速く、デジタル、テクノロジーの世界は次から次へと新しいものが生まれていくので、追いつけるのも自ずと限界があります。そこで逆転の発想として、そういった先進的な知見を持つ人たちが全国から集まってくるような「場」を作って提供すれば、そこに集まってきた人たちと新しい取り組みが始められるのではと思ったわけです。



コワーキングスペース。利用者が自由に利用できる仕事場。
広く開放された空間の中で、人数やスタイルに合わせた利用が可能

ー約270坪のDRTには、コワーキングスペース、イベントスペース、ミーティングスペースなどが設けられていますね。実際にさまざまなタイプのシェアオフィスを多数運営されてきた須賀さんはコミュニティマネージメントのノウハウをいろいろお持ちではないかと思いますが、DRTでは、どのような方針で運営していきたいと考えますか。

須賀 この5年ほどの間に、東京都内ではシェアオフィスがかなり乱立してきている状況です。いわゆるレンタルオフィスと呼ばれる、電話番号がいて郵便物を受け取ってくれて……というサービスが付随する形から始まったシェアオフィスから、次世代としてコミュニティ型シェアオフィスがたくさん登場しています。

しかしながら、それだけ数も増えてくると、どうしても「場所が便利だから使う」とか「デザインが優れているから使いたい」みたいな、そういうニーズを単に満たすだけでは、なかなか差別化ができないという状況があります。

DRTは地銀が運営する日本初のオープンイノベーション拠点になりますから、このストーリーを活かした場づくりと、機能性を持たせられたいと思っています。

また、人と人が交差することで新しいムーブメントを起していけるように、今回その役割を担う、コミュニティマネージャーについては、スタートアップや、PR、人材領域など各分野のプロフェッショナルを配置し、入居者の成長を支える仕組みを作りたいと考えています。

いずれはこの拠点の入居者によって、企業や地域が抱える多様な課題に取り組めるようにプロジェクトを生み出しながら対応していくような動きも作りたいと思っています。

具体的には、スタートアップ企業が成長していくために必要なのはやっぱり「人」だったりするので、まずは人材領域に強い人、それから「地域が交差する」というのも本施設のテーマの一つですし、我々自身も「福岡移住計画」という任意団体で「地方創生」を掲げていますから、そういった地方創生に強いメンバーも配置したいと思っています。





その他にも「シェアリングエコノミー」や「フィンテック」といった新しい領域の知見を持つメンバーが、コミュニティマネージャーとなることで、新たなマッチングを生み出せるのではないかと考えています。

我々自身も各拠点で取り組んできたものの集大成のような気持ちで取り組み、どんな結果を残せるかは大きなチャレンジだと考えています。

―最後に、コミュニティマネージャーの方々とともに実際のDRITを運営する責任者として、どのような課題、ビジョンをお持ちなのか教えてください。

岩田 我々の目的は、普段接することのない方々とどれだけコンタクトが持てるかというところになるので、数字的な目標はありません。ただコミュニティマネージャーの方々を介して情報共有させていただきながら、そういう接点をいかに持たせてもらえるかが当面の課題ですね。

銀行は融資や出資をするだけでなく、実はいろんな人たちをつないでマッチングするという役割も持ってい

ます。いろいろな取引先、すべての業種のさまざまなビジネスをしていらっしゃる方がいるので、そういった取引先のビジネスが上向くようなアイデア、テクノロジーをスタートアップ企業の方がお持ちでしたら、ご紹介することができると思っています。

これまではマッチングといっても取引先同士を紹介するとか、販路の紹介にとどまっていたのですが、スタートアップ企業とのマッチングができれば、新たなビジネスチャンスを生み出すことができるのではないかと考えています。

Diagonal Run Tokyo

住所：東京都中央区八重洲2丁目8番7号
福岡ビル4階

〈公式サイト〉

<https://diagonal-run.jp/>

※利用申込み・お問合せは、上記サイトで受け付けています

サッカーのグラウンドを模したイベントスペース（50～200人収容可能）。
テント設置も可能。写真は夜の雰囲気

